

第4回石狩市手話基本条例推進懇話会議事録【全文筆記】

日時：平成30年2月6日（火）13：30～15：00

場所：りんくる 3階 会議室

出欠状況 出席者 9名 欠席者 0名

敬称略

委 員					
役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠
会長	金原 輝幸	出席	委員	町田 あゆみ	出席
副会長	金原 浩之	出席	委員	磯野 敬子	出席
委員	杉本 五郎	出席	委員	牧野 圭子	出席
委員	玉手 千晶	出席			
委員	辻 真弥	出席			
委員	奥井 一恵	出席			
事務局	所 属		氏 名		
	石狩市保健福祉部障がい福祉課	課長	田村 奈緒美		
	石狩市保健福祉部障がい福祉課	主査	鈴木 昌裕		
	石狩市保健福祉部障がい福祉課	主任	坂下 和広		
	石狩市専任手話通訳者		丸山 亜紀		
	石狩市専任手話通訳者		今村 美保		

傍聴者 3名

1 前回会議の振返り

2 委員意見交換

【テーマ】

手話の理解を広げるための課題等について

3 次回会議日程の確認

4 配付資料

第3回石狩市手話基本条例推進懇話会における主な発言要旨

開 会

【事務局田村】 では、お時間少し過ぎましたが、これより第4回の石狩市手話条例推進懇話会を始めまいります。今日は、委員、皆さんご出席でございます。最初に事務連絡がございますので、事務局の鈴木からお話をさせていただきます。

【事務局鈴木】 みなさん、こんにちは。事務局の鈴木です。配布資料について確認ということで説明させていただきます。皆さん、お手元の資料を見ながら確認をお願いします。

「会議次第」と前回「第3回 懇話会議事録」「第3回 発言要旨」「全文筆記議事録」あと北海道新聞の新聞記事ということで、昨年、国のバリアフリー優良賞ということで表彰されました。その記事を参考にお配りさせていただきました。この記事につきましては、これまで手話条例ができて、手話出前講座運営委員会を中心に、手話出前講座・出前授業の取り組みが評価されたという形で国から表彰されたという記事になっています。皆さんにお知らせということでお配りさせていただきました。本日も審議、議論をよろしくお願い致します。

【事務局田村】 それでは、この後の進行を金原会長にお願い致します。

【金原会長】 皆さんお集まりいただき、お疲れ様です。遅くなりましたが、明けましておめでとうございます。今日はこの事務局から頂いた資料に基づき、後で読んで確認したいと思っています。

今日は4回目です。次回は5回目。今年度は5回目で終了と思います。改めて新年度は4月以降から始まる予定ですので、皆さん死なないように元気で頑張ってください。私も命がけで頑張ります。

では、少しお話したいことがあります。1つは国の動向についてお話したいと思います。日本財団笹川陽平会長が言っている事がブログに載っています。それを読みました。「会長として、国はまだまだ法制化が進んでいないということで不満がある。」というようなことをインターネット、ブログで載せていました。「全国の市町村が法制化に賛成しているのに、なぜ国は動かないのか。」ということに不満があるとの事。帰宅された後、ブログを見ていただければ分かると思います。

前回の会議の内容を皆さん、覚えていらっしゃいますか？どちらにしても、議事録がありますので、思い出してまた発言するということでも構いません。自由に発言して構いません。気がついたことを思い出して発言していただいても構いません。時間の関係もありますが、最後までしっかり議論していただきたいと思っています。ご協力よろしくお願い致します。

今日の議事の内容について、意見交換をしたいと思います。今まで発言の少なかった方もいらっしゃいますので、積極的に発言をお願い致します。時間がなくならないように積極的に発言をお願い致します。

問題1つ。「手話の理解を広めるための課題などについて」というテーマがあり

ますので、これについて皆さんの考え、意見を出してください。

【玉手委員】 玉手です。市役所のトイレに手話の単語、月替わりで張ってありますよね。あれは消防署を真似てやったそうです。私はここのトイレはあまり利用しないのですが、たまにトイレに入って、見ると「あ、良いな」という風に思います。だから、市役所だけでなく、色々な石狩市の関係の施設の中でも、例えば市役所が印刷して配ってもらって、貼る手間は必要だけれど、色々な所であれを、トイレに限らず色々な所で貼って、常に手話が見られる、覚えたい気持ちがあれば単語を覚えられるというような方法は、あまりお金もかからずできることかなという風に思って、この前トイレで思いました。

辞典のイラストではなくて、「どこかで働いている人だろうな」という顔のイラスト、職員の顔…、職員なのですね、職員の坊主の人とか色々な人が出てくるのも良いな、できれば小学校なら小学校の誰か、生徒の顔が出てきたりという、もっと身近なイラストになって良いかなという風に思ったのですよね。金原さん、トイレで見たことありますか？

【金原会長】 ない。

【玉手委員】 ないの？

【金原会長】 ふーん、そうなのか。トイレは行ってないな。

【杉本委員】 エレベーターにも貼ったら良いですね。何もしないまま乗っているよりも、時間は1分ぐらいだけでも、そういう貼った物があれば良いなと思います。トイレは動かないです。その間見て覚える事ができますね。エレベーターも何もないので、何も考えないで乗っているよりも、見て覚える事ができます。動く所ではあまり見ないけれども、静止している所では見る事ができますね。なので、それは良い案だと思います。

【金原会長】 他の方はどうでしょうか？

皆さんが静かだと、私が発言してしまいますが。今日朝10時～12時まで、石狩の手話サークル“ミズバショウ”に行き、グループに分かれて会話をしました。「地震の時はどうする？ 倒れたらどうする？ そういう時ろう者はどうしたら良いのか？」というような話でした。本当に参考になりました。「他の人が話している内容が、ろう者にはわからないので、掲示等したらどうだろうか？」などの意見が色々出て、とても参考になりました。

実は私は福島や千葉に行って、「このような時にほとんどのろう者が必要な物は何か？」という話をしました。「ろう者が必要な物は懐中電灯だ。」という意見でした。明るいところでは話すことができますが、停電したりして暗いところでは手話がまったく見えません。聞こえる人の場合は近くの人と話をすることができますが、「私たちは話もできないし、懐中電灯が必要だね」というようなお話でした。万が一。皆さん、石狩も海が近いですよね。津波などで死んでしまうこともあるかも知れません。懐中電灯が必要だと思います。

面白い話もあります。福島ではヘルメットにつけたヘッドランプ。ヘルメットに懐中電灯をちょんまげの様につけたものがあるそうです。恥ずかしくないです。通訳は必ずそのヘルメットをかぶる。そのように、ろう者が一番必要なのはやはり懐中電灯なのですよね。

【杉本委員】 ライトを使う時は、ろう者に光を当てられると相手の話している姿が見えないので、自分に光を当てて話してくれるほうが良いという話を聞いています。聞こえる人は、反対に相手に光を向けて明るくしてしまうので見えないのですよね。ちょっと自分に光を当てるとお化けみたいになってしまうのですけれども。私の家には小さい物から大きい物まで懐中電灯がたくさんあります。そのような使い方も良いのではないのでしょうか。

【金原会長】 いっぱいあるのなら寄付したら良いのではないの？
このサークルで話し合われたことは本当に山のようにいっぱいあって、意見が色々だされ、本当に勉強になりました。

【杉本委員】 サークルでしょう？サークルが良かったのだよ？私ではないよ。サークルが良かったという話ですよ。
褒めてくれたらうれしいですよ。

【金原会長】 他に意見はないですか？ どうでしょうか、副会長？

【金原副会長】 先日、東京の障害者の社長の映像を見ました。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて街を変えるために色々計画をしている、そのための意見を出しているという映像。今まで皆さん、街の中でバリアフリーについて、皆さん分かっていると思うのですが、昔と比べると理解が進んでいるとは思いますが、「手話のバリアフリー」というのはまだまだ遅れている、と思います。他の方から見た時にろう者はわかりませんので。昨日も弟子屈の議員さんが来て、条例についての話を聞きたいと言われお話したのですが、議員さんは意味がわかりませんでした。「高齢になって耳が遠くなったら手話は必要なのか？」「じゃあ今はいらないのか？」と聞かれました。社会はまだまだ、手話が何のために必要なのか、手話のバリアフリーは何なのかということがまだまだ分かっていない、遅れています。これを進めるために石狩市の出前講座もやっていますけれども、その効果、そういうものが必要になるのかな、と思います。いろいろ学んだことが絵や文でも良いので、色々なところに掲示され、市民が見て分かるようにろうあ者の理解を進めることにつなげて欲しいと思います。

【金原会長】 杉本さんどうですか？

【杉本委員】 同意見です。学級新聞、学校新聞？色々ありますが、手話を教えた生徒たちが色々学び、その感想などを学級新聞に書いて貼っています。そういう学校がいくつかあります。市民にはまだ広まっていませんが。学校の中だけの新聞なので。そういうものが貼られています。それが広がっていくと良いと思います。

【金原会長】 できれば学級新聞のコピーを取って回して、皆で見るという事はどうでしょう

か？方法が分からないですよ、学校側にちょっと相談をもちかけて、認めていただけるかどうか確認する必要がありますよね。

【杉本委員】 市民のために、どうやって広げたら良いのか？方法が分からない。広報にはさむとか、新聞広告にするとかでしょうか。

【玉手委員】 その方法…なんと言うか、一発で広めるのは無理だけれど、例えば「手話フェスタいしかり」の場合は1年に1回やっていて、出前講座の様子なども市民に見てもらっている、その時に学校ごとの取り組みとかも、日常的に市民が見ることはできないけれど、手話フェスタの中で、もし学校が認めてくれるのならば、資料を提供してくれるのなら、フェスタの中で展示をしていくという方法もありますよね。そのためには市民にたくさん来てもらう必要があるけれど。そういうところから広める方法もあると思う。

【杉本委員】 学校のバリアフリーが広まれば、社会に広める方法ができるのではないかなと思います。

【金原会長】 大切ですよ。そういうことは市民は全く知らないと思いますよね。

【玉手委員】 例えば手話フェスタで展示をする、それで一般の商業新聞がそれを取材してくれて、そういう形で徐々に広めていく、見てもらう、他の自治体でも見てもらう、という方法、広げていく方法かなと思います。

【金原会長】 すみません、石狩市民の人口は何人ですか？

【杉本委員】 5万8千弱ぐらいですかね。

【金原会長】 ああそうですか。

【磯野委員】 すみません、磯野です。私の住んでいる緑苑台地域ですが、小学校便りがありまして、それは町内会の回覧板で各家庭に回ります。ですから、回覧板に挟まっているので、家庭で見ることができます。

【玉手委員】 同じですよ。それは市内全部…。

【磯野委員】 ですが、すべての家族が見ているかどうかはわかりませんが…。ぱらっと見て終わってしまう人もいるかもしれません。本当であれば1枚ずつ各家庭に欲しいところですが。

【玉手委員】 すみません。私、多分その地域の小学校、中学校の学校便りは回覧板に入って、私たち見ることで。この前私、樽川中学校かな、読んだら、出前で手話の講師が来てくれる、と書いてあった。読んでそれを「へ～」と思ってくれる人がどの程度いるかは分からないけど。

【金原会長】 伺いますが、石狩市の手話条例が成立されてから、手話を学ぶ人の数は増えてますか？実際増えてますか？どうでしょうか。

【磯野委員】 増えていると思いますが。杉本さんどうですか？

【金原会長】 学校は、専門学校でもどこでも構わないのですが、手話を学ぶ人が増えてますか、という質問なのですよ。

【杉本委員】 増えています。急激に増えている、ではないですけども、確実に増えている

状況です。延べ何人かというのは、出前講座を担当している福祉課の方で集計していると思います。

【金原会長】 「のべ」ではない。手話の表現が違いますね。

【町田委員】 町田です。前回の懇話会の時と同じ内容になるかもしれないのですが、小学校とかそういう学校関係は広まりつつある。一方、前に私が言ったのは、会社とかそういうところの理解が足りない、まだまだじゃないか、というのを提起したのですが、多分、市民、大人も子どもも「ああ、石狩は手話のまちなのだ。そういう条例ができたのだ。」というのはぼんやりと分かっているのではないかと思うのです。ただそれを自分の会社と結び付けるとか、自分の会社にろうあ者がいる、その人に対する配慮だったり、合理的配慮だったり、そういうのが理解できないとか分からないのではないかなと思うのですよね。ちょっと手法を変えるとか、ただ手話を広めるだけではなくて、理解をしてもらうための方法をもっと考えなければいけないのではないかな、と思っているのですよね。それで「何か案があるのか」と聞かれると答えられないのですが、やはり、手話で出前講座とかサークルだったりカフェだったり色々な所で、「手話」「手話」と最近結構広まり、分かってくれている人も増えていって「手話なのだ」というのはわかっていると思うのですが、大人の人たち、お店だったり、そういうところに、何か理解とか協力とか配慮をしてくれるような方法を考えなければいけない時ではないかと思ったのですよね。

【奥井委員】 すみません、奥井です。こないだたまたま、石狩市の職場、会社に勤めている札幌のろうあ者に会った時に、「石狩で買い物をするときに、『ありがとう』と(手話で)言ってくれる。コンビニもそうだし、生協に行った時も『ありがとう』と(手話で)言ってくれる。札幌では今までなかった。石狩で、色々なところに行った時に、そういう風に『ありがとう』と手話で表現してくれるお店がある。」と言う風に話していたのですよね。なので、一方で石狩市の職場で勤めているのに、手話を学びたいと言ってくれる職員はいないので、石狩市のお店で、多分高校生のアルバイトの若い子なのかもしれないけれども、手話で『ありがとう』と言ってくれるけれども、会社では「手話を勉強したい」だとか、手話に興味を持ってくれる人がいない、だとかというのが、今、町田さんが言ったように、会社でも何か、石狩市にある会社であり、職場なのだから、できることが何かないのかと思ったのですよね。

【金原会長】 牧野委員は、何か意見はありませんか？

【牧野委員】 やはり今、札幌で勤めている人で、会社でもやはり手話を……。1人だけぼっつんとなっている、という話は聞いたことがありますね。だからそこでは、自分がトイレに行くにも、一応書いて、「トイレに行きたい」だとか「行って来ます」だとか、そうしたら時計を見られるとか、「何時まで？」と、要はトイレに行くだけでも時計を見られている、という話は聞いて、やはり自分は一人ぼっちだという話

は聞いたことがありますね。だからそれは、やはり札幌に通勤している…札幌だけじゃなくてやはり石狩でも中には普通、中で働いている方がいらして、そういうちょっと淋しい思いをしている方がいらっしゃるという話は聞いていますね。だから、なんとか…という気持ちは、話を聞いていて、それは今回…。こないだ、飛び降り自殺みたいな何か、南北線でありましたよね。その時も、皆さん、通勤通学っていうか、時間的に午前中…午後？午後に解除したのか？その時に私としては、ろうあ者の人にしたら、そういうのが「何があったのだろう」って分からない、それは札幌市があそこの掲示板に書いているわけでもないし、何か伝える手立てはないかな、っていつも思っていましたね。地下鉄の中では、次の停車とか、あれは昔に比べて良くなったなという風には見ていましたけれども、やはりそういう何かのことが、突発的な時にやはり困っているのではないかなといつも思っていますね。火事だとか。だから、何か良い方法…良い方法というか、どういう風にすれば良いのか何もわからないのですけれど、皆さん、こういうことで困っている方が多いのではないかと思います。

【金原会長】 今、牧野さんのご意見をいただきましたが、どう思いますか？

今の意見をいただいたことに対して、金原副会長どう思いますか？何か考えることはありますか？

【金原副会長】 前、会社に勤めていた経験から言いますと、「会社の中で手話サークルを作ってください」と言うとか、上司の理解があったので手話サークルを作ってもらうことができました。始めはたくさんの方が集まりましたが、徐々に2回3回と続けていくうちに、だんだん通ってくる人が少なくなりました。やはり職場で手話を使うことが大切だと思います。時間が過ぎれば忘れてしまうという事もあるのでしょうけれども。社会が、手話に対する理解がまだ広まっていない、というのを感じますね。本当に手話が必要な人だけ分かってもらうのではなくて、日常的な関わりがなければ、なかなか手話についての理解も難しい、深まるのは難しいと思っています。自分が努力する以外の方法はないと思っています。

【金原会長】 社会的な考え、配慮は今は充分とは言えないですよ。一部が広がっているぐらい。例えば、アサヒビールの会社がありますね。そこの社長は、今はどうか分かりませんが、ろうあ者が採用された時に、その人に対して手話が必要であるということで社長から「手話サークルを作れ」という指令が出たそうです。そこで、手話で、コミュニケーションがスムーズにできるようになったという経緯があるそうです。ろうあ者のサークルを作りたいという意見を挙げるのではなくて、一方としては社長命令のようなものが必要だと思います。筆談が難しい方もいますよね。筆談は、ろうあ者もできる方もいますけれども、「筆談ができるから通訳は要らない」という考え方もありますよね。でも今は手話条例ができたばかりですから、相撲で言えばまだ「序の口」の段階だと思います。まだまだ目指すところは、何、ということまで、はっきり課題がでていない状況だと思うのですが、日

本手話研究所の目標は何かというと、日本語並みに数を増やす、だいたい30万、40万語ぐらい日本語はありますけど、日本手話研究所で作られた物は微々たるもので、3万語ぐらいですね。圧倒的に数が日本語に対して足りないので、そこに追いつけという目標を持っています。ですから、聞こえる人たちは辞典ありますよね。岩波書店など、辞典はありますけれども、ほとんど聞こえる人が作っている物です。ろう者のための言葉が書かれているのは少ないですよ。「手話通訳」だとか「手話」だとかという言葉は載っていますけれども、本当に足りない。そうではなくて、日本語並みに数を増やすという目標があります。

手話条例、法制ができるということも、できたからといってすぐに社会が明るくなるということではないと思いますが。

【町田委員】

今の話と牧野さんの話で思ったのですが、「きっかけ」とか「気付き」というのがすごく大切だと思うのですよね。さっき私自分で言っていて、「ああ、そうだよな」思ったのですが、大人に対するきっかけ、具体的にどういう方法が良いのかわからないのですが、今、小学校の出前講座の中でロールプレイをやっているのですが、そこで、「地下鉄で急に止まった。それが火災なのか、人身事故なのか分からない。ろう者は困る。」といった時に、小学生に対して、「みなさんどうしますか？」というようなことをロールプレイでやっているのですよね。そうしたら子どもたちは、「手をつないで行くよ」とか「一緒に逃げよう」だとか、何か「事故が起きた」みたいなことを(身振り)で表してくれて、あとは書いたりとか、子どもたちはそういうのを学んでいるのです。それがきっかけになってその子たちが大人になった時にはこの条例が活かされる、やっと活かされる時なのかなと思うのですが、今、牧野さんが感じたような、大人の中でも、「こういう時は不便だよな。困るよな。」という、そういう大人の人たちが増えていくことでも…何が言いたいのでしょうか、変えられるのではないかな、何かできるのではないかなと思ったのですよね。だから、条例がスタートしました、広まりました、手話の単語は教えて覚えている、でもそれを使っていない。ではなくて、何か起きたときにハッと気がついて、「手話が必要だ」というのを気付いてくれるのではないかなと思ったのです。

副会長の話で、必要な時に手話を学ぼう、となりますよね、皆さん。やむを得ないといえばやむを得ないのですけれども、やはりそういう災害だったり、事故だったり、起きた時のことを考えれば、何と云うのか、手話をただ学びますではなくて、直接的に必要と感じていない人はなかなか学ばないのではないかなと思うのですよね。だから減っていく、手話を学ぶ人が。けども、「あっ、災害！事故！の時、ろう者は不便だな。そういえばどうしたのだろう。」と、何か気付きとかある人は、積極的に手話を学ぶのではないかなと思うので、石狩市は明るい未来が待っているのではないかなと思っています。以上。すみません。

【辻委員】 私は、石狩市の広報、1ヵ月に1回配られている、あれは、全部の家庭に配られている…？

【事務局田村】 会社も、家庭も。

【辻委員】 会社も家庭も…。会社も家庭も配られている物に写真が載っていて、手話表現、単語ですよ。載っていますよね。なので、それも手話を広める一つ、きっかけなのかなと思っていて、今、回覧板に挟んでの話があった時に、それであれば広報、全てに配られている広報に、例えば1ページ特別に作るとか、それが、1年間に1回なのか2回なのか3回なのか、6回なのか、回数を増やすという形で手話に関してのページを増やすというのも、回覧、町内会だけ見る、できる状況なので、読めることなので、もし広めるということではそういうことで特別なページを作るということも良いと思う。そして今、出前講座で学校に行っている。今は子どもたちの学校のクラスだけで勉強、だけれども、それが参観日の時に開く、手話の授業を開くのであれば、少なくとも親御さんたちだったり、今だったらおじいちゃん、おばあちゃんたちも来るのかな、そういう時には大人に対しても、「こういうことをしているのだよ」ということもできると思う。

私の住んでいる町内会では、多分役員さんが、手話に関して積極的な方がいて、それで手話を、手話歌を勉強しましょう、みたいなので、多分ひまわりさんがお手伝いに入って、サークルの方が入ってお手伝いしたりとか、ただ残念だったのは、ひまわりさんのサークルの名前がまちがって載ってたのがちょっと残念だったのですよね。そういうのがあったので、そういうので少しずつ広まっているという風を感じているのですけれども、今できる方法としては、今やっている内容を少しずつ広げる、特別ふっというのももちろん大切なのですけれども、今例えばその広報誌にページを作るだとか、出前の授業の時にできることは何なのか、とか、あと町内会で手話、理解が広まっているようであれば、では町内会に対してできることは何なのか、と、今やっている内容に対して広めることを考えたらスムーズなのかなということと、あと前の会議の時に出了、提案された、市役所、大きなタイトルをパッ！と貼る、見てすぐ分かる、というのはやはり大切だと思います。それは必ずお願いしたいなという風に思っています。

【杉本委員】 市民の皆さんは、条例ができて、「皆さん、手話を覚えてくださいね」と言っても中々わからないです。何のために手話を覚えるのかということが分からない人が多いです。いつも初級の手話講座、入門の時に「講座に参加するきっかけは何か？」と聞くと、「前に銀行で働いていました。ろう者が来て、対応が充分にはできませんでした。そういう悔しい気持ちがあるので、そういう気持ちを持ち続けていたので、手話を学べばろう者とコミュニケーションができたのにな。」という風なきっかけの話をしてくれます。皆さんの気付きは同じですよ。

いつも、小学校の出前講座に初めて行った時には、初めて会う子供たちは緊張しています。ろうあ者とはどういう人たちなのか、怖い人なのか、化け物のよう

な人なのか、と思っているのですけれども、手話で話し始めると、次の時には皆
ワーッと寄ってきてくれて、皆私のことを好きだと言ってくれます。会う前はや
はり怖いのですが、会った後は皆楽しくなって好きになってくれます。ろうあ者
の理解も手話も、もっと好きになって覚えたいという気持ちがわいてきます。な
のでやはり、「皆、手話を覚えろ！覚えろ！」ということではなくて、ろうあ者と
会ってみて、声を消して、色々と身振りや手話をつけてやってみて、「私は耳が聞
こえないのだよ」ということを表してみても、という風に係わっていくのが良いと思
います。ろうあ協会の活動ももっと増やせば、皆さん呼び込むことができるの
ではないかと思えます。今日は改めてそういうことに気付きました。頑張ります。

【町田委員】 そうです。

【金原会長】 すぐ真似するのですよね、町田委員。

逆に聞きたいのですけれども、例えば小学校の生徒に、私たちが手話サークル
の活動をやっている様子を見学に来ていただくとか、そういうことはあります
か？

【杉本委員】 前に1・2回はありましたね。最近はないです。

【金原会長】 札幌では、1年に2回ぐらいは見学に来ています。サークルには高齢者の方が
多いのですけれども、生徒は様子を見て、「へえ。高齢の方でも手話を頑張れば学べ
るのだな。」と思うことが、いずれこれが生きてくると思えます。子供たちがそう
思うことが、いつか生きてくるのだと思えます。そして「手話サークルに入りたい」
と目覚めてくることにもつながると思えます。1年後、2年後にそのようになって
くるのだと思えます。そのような事も札幌ではあります。行くだけではなくて、
実際に見てもらおうために来てもらうことも良いですね。

私の場合は、知的障害のある子どもとの関わりもあり、そこによく行って簡単
な手話を教えるということもあります。家から歩いて1分ぐらいの所にあり、近
いのです。よくそこから呼ばれます。近づいていくと、うるさいのですけれども
ワーッと寄って来て、可愛いです。「皆、静かにしなさいね」と言って、手話歌を
教えたりすれば、とても楽しんでくれます。障がいがあっても、意外と明るくや
ってくれます。泣いて「帰らないで」と言ってくるので「いやいや…晩御飯の支度
があるので帰らなければいけないのだ」と言って帰ります。妻が働いているので晩
御飯の支度をしなければいけないのです。知的障がい者の方が、逆に積極的に手
話をやってくれます。「教えて、教えて。」と言ってくれます。皆さん積極的です。
小学生だったら、手話をやっているのを見て、「私の、名前は、杉本です。よろし
く、お願いします。」「分かりました。」と勉強的になると思いますが、逆にそう
いう子どもたちの方が「やりたい！やりたい！」と言って寄って来てくれます。と
ても可愛いです。

石狩市で、「手話のづくり」というような看板などは作れないのでしょうか？

【事務局田村】 「手話の街づくり」…。そうですね、作れないことはないと思えますけれど

も…。

【金原会長】 シンボルが必要ですよ。手話だけ、行政だけ、ということでは、市民からは不満が出てくるかもしれないですよ。手話だけに一生懸命やっているとなると、他の、普段の暮らしなどの不満が出ると思います。

【金原副会長】 鳥取県の職員は、手話のパフォーマンスをしています。T シャツにそういう柄をつけて、それを着て仕事をしています。こちら石狩市でも職員の方にそういうTシャツを作って着てもらったらいかがでしょうか。そうしたら、見たらすぐに分かると思います。

【金原会長】 袖に1本、2本、3本と手話のレベルに合わせて線を入れたらどうでしょう。休憩時間は必要ですか？

【事務局田村】 10分ぐらい。
では、トイレに行って、10分ぐらい見てきてください。
— 休憩 —

【金原会長】 よろしいでしょうか？ では続いて、他に何か意見はございませんか？
先ほど私が言ったのは、石狩の「手話の町」というものを作るというのは難しいということですかね？

【事務局田村】 うーん、難しいかな…

【金原会長】 新得は当たり前前に町の中にシンボルが建ってますよね。石狩は難しいということですかね。杉本さんの家の所に建てるというのはどうですか？

【杉本委員】 私の家かい？ちょっと…

【金原会長】 「手話は杉本にあり」というのを建てるのはどうでしょうか？

【杉本委員】 近所の方は、私が聞こえないということを知っています。義父が遊びに来ますし、「あっち」「こっち」など、身振りで会話している様子も見ています。義父が来れば、わからなくても方向を示したり、というような、身振りで会話している様子も窓から見ていますけれどもね。義父は何も考えずに、周りの人とそのように身振りで交流していますよ。

【金原会長】 それは良い話ですね。そうやって近所の人とお付き合いをされているんですね。

【杉本委員】 義父は珍しいかもしれないけれども…。

【金原会長】 陰から見ているということですか？杉本さん。

【杉本委員】 そうなのです。土地を借りているお隣の場所があるのですけれども、何か漬物を、大根で漬物を作ってあげたり、「お世話になっています」「大きな大根ですね」というような会話もしています。

【金原会長】 横道に逸れてすみません。では、何か他に意見はございませんか？

【金原副会長】 災害の話が出ましたけれども、今、石狩市でパンフレットを2冊作っていますね。3冊目を作る予定はありますか？

【杉本委員】 ちょっと待ってください。消防の関係、防災の関係で打ち合わせたことがあります。避難の事が載っているとか。そこには手話の単語が載っているというのは

作っています。

【金原副会長】 防災に関するパンフレットは作った方が良いと思います。もし災害が起こった場合にろう者が困ること、というようなことで作るのが良いと思います。

【杉本委員】 ほぼ完成が近いと思います。今度出来上がったら皆さんにお渡ししますね。

【金原会長】 とにかく手話条例がスタートされてから、全国的に見ても、一番普及が・・・明石市、どのように表現しますか？「明日の石？」とするのでしょうか。手の方向が逆だよ。手の方向が逆だと思う。「明石市」。いつもホームページに沢山、「何々をしました」と沢山ホームページにお知らせされています。すごい活動されていますよね。内容はとにかく分かりませんが、いつも「こんなことをしました」ということがホームページで載っています。

【杉本委員】 明石は日本人なのではないでしょうか。

【金原会長】 今話した明石市のようなものがあれば、それを取り組みとつなげて、マネをするというようなことがあれば日本一になるのではないのでしょうか。例えば石狩市は手話の関係で「何かをやっています」ということをホームページで、ブログなどでアップするということがありますか？

【事務局田村】 一応ホームページはあります。石狩市の。障がい福祉課の中にあります。ただその充実が、明石市さんほどではないというのも、本当におっしゃるとおりです。工夫は必要だなと思っています。

さっき、副会長がおっしゃった防災ガイドの件ですね、についても、危機管理担当というところで製作中でして、視覚、耳の聞こえない方だけじゃなくて、目の見えない方、体に障がいがおありの方、ご病気をお持ちの方、色々なところからご意見をお伺いして、どなたが見ても分かり易い防災ガイドというのを、今作っているところです。手話のことももちろん出ています。できれば、来年度4月以降に皆さんにもご覧いただけるようにしたいと思います。

【金原会長】 今は取り組み中ということですね。石狩市が担当して、印刷をして配るということですね。その前にはやはり、杉本さんたちに監修という形で・・・

【杉本委員】 もう終わったのです。監修したのです。3度4度と打ち合わせをしましたね。

【金原会長】 それが当たり前ですよ。市がするのは当たり前ですが、「監修したのは誰々」というのを載せるということですよ。それが正しい作り方だと思います。

【杉本委員】 そうか、そうか・・・

石狩では足りないの、もっと良い情報があれば教えて欲しい。手話と文章をつなぎ合わせる、簡単な内容でも構わない、ということですよ。

【金原会長】 ですから、それを監修したということが必要なのです。後で言われることもありますが、そうではなくてきちんとその内容を監修したというのを明かすべきだと思います。それが正しい本の作り方だと思います。

【金原副会長】 北海道ろうあ連盟もよく後ろに名前を載せているよね。

【事務局田村】 防災ガイドの裏側には、ちょっと北海道ろうあ連盟は入っていないのですけれ

ども、杉本さんのところの石狩聴力障害者協会さんですか、視覚障害者協会さんですか、このたびご意見を頂戴したところの団体のお名前は全て入っています。

【金原会長】 協力というの構いませんけれども、ただ手話に関していえば責任持って監修というの載せるべきですよ。

【事務局田村】 まだ完成形ではないのではっきりとは分からないのですが、そのページの真ん中にQRコードがあって、それを読み込ませると3人(専任手話通訳者)がやる手話通訳の動画ができるようになっています。そのような形の物を今作成中です。それにはもちろん専通さんの専通の協力もありますし、五郎さんの監修もある中で…。

【金原副会長】 動画で見られるという事ですね。モデルは誰ですか？動画のモデルは？

【事務局田村】 この3人のうち誰かです。誰か、この辺りの人が…。

【玉手委員】 そうなんだ。

【金原会長】 平成3人娘ということですか？

【杉本委員】 昭和だよ。平成生まれはいませんよ。

【金原会長】 かわいらしいんだから…

【杉本委員】 いません。

【金原会長】 もし監修というのが載せられないのであれば、終わりのところに「監修協力頂いた」というのを一言載せていただければ良いと思います。ですから認めてもらえば、私たち 苦情？そういうものがでなくなる。苦情が出ない。ですから注意してやって欲しいのです。本当にうるさいのです。本を作るということは、きちんとこうしたその後に対抗できるように正しく作らなければいけないと思います。

苦情の無いように100パーセント作るのは難しい。

【金原副会長】 違うよ、という意見も色々いただくことがある。やられっぱなしで金原さんはいつも泣いているのだよ。

【金原会長】 何か他に意見はありませんか？思いついたことでも構いませんよ。シーンとしてますね。

市役所といえば、東区、私は東区に住んでいます。役所へ行けば、体制は前と比べて変わってきています。以前はろうあ者が来れば「あ、大変だ」というような態度が表れます。だから言いたい事も「まあ、いい、いい。」と我慢していました。ですから筆談でやっていますが、最近は変わっています。ろう者が来ればすぐに「はい、なんですか？私は少し手話ができます。」と書いてくれることもありますし、用事が終われば「ありがとう」というような手話を表してくれる人が2・3人出てくるようになりました。認知度が高まってきている、以前と変わってきたと思います。

北見に行く時にはJRを使います。車内販売で女性の方が来ますと、のどが渴いたので飲み物を買います。「私は耳が聞こえません。」と表すと、女性は「私は手

話が少しできますよ。」と表してくれます。本当に驚くことがあります。まさかと思えます。手話で表してくれる様子もあって、150という風に電卓で表してくれます。今まではなかったのですけれども。また折り返し「来ないかな、来ないかな？」と待っているのですけれども。その方が来れば指を指してお菓子を買うこともあります。本当に驚くことがあります。現実的に手話は少しずつ広まって、変わって来ていると思えます。

【金原副会長】 社会で皆が手話を使うようになれば、金原さんはお金を使って、散財することになりますね。

【金原会長】 仕方がないことですね。

【町田委員】 色々考えていて、方法…どうかなと思ったのですが。さっき誰かが出していた、学校の参観日の時を狙って、狙ってというか、その時に手話の授業を開く。学校側にも協力してもらって、手話の授業を開く。すると、親にも手話というものが分かる、というか見てもらえる。それがきっかけになるのじゃないかな、と思ったのですよね。まず簡単なというか、進めやすいところでは、それ、そのことかなと今思っていたのですよね。あとは、今そのJRの販売の話じゃないけれども、色々な会社の社長さんの意識で変わるのではないかなと思うのです。そういう何かのきっかけとか、そういうものをポンポンと「種を蒔く」じゃないけれども、何かきっかけを蒔いておけば、おのずと大人の人々がたにも広がって行って、積極的までいかななくても、「何か協力したいわ」「私もやりたいわ」「できることはやりたい」というような意識付けにはなるのではないかな、と今思いながら話聞いてたのですよね。そういう方法としては、まず学校に言って、参観日に親、大人をいっぱい動員して見てもらう。そしてその中で、災害・地下鉄の事故の時のロールプレイを実際にやってみて、大人の人にも「ああ、なるほど。ろうあ者ってそういうときに困るのだな。電気が消えて暗くなって、耳も聞こえない状態がどんなに不安なことなのか。」というのを子どもにもわかるけれども、大人のほうももっと分かってくれるのじゃないかなと思うのですよね。そういう所から、それをやってみたらどうかと今思っています。

【玉手委員】 1年に1回、年末12月に市長室開放というのがあって、関係、ろう協ほか、通研とか手話サークルとか要約筆記の団体、5つで行って市長と懇談するのですよね。その時に、今回おっしゃったのが、「自分は挨拶とか色々、手話はしないほうがいい」というのをチラッと行ってただけ、おっしゃってただけ、やはり私は市長が色々な場で手話をやるという効果は大きいと思う。ただその色々な挨拶の原稿を手話で覚えるというのはすごい大変だとは思いますが、できるだけ市長自らが色々ろうの、ろう者が関係する集会だけでなく、石狩市の新年交礼会とか、全部でなくても市長自らが手話を使ってくれると良いなという風に、「皆に覚えて欲しい」ではなく「自分もやる」。そんなに滑らかでなくても良いと思うのです。ぜひ私はやっていただけたら良いなという風に思っています。

【町田委員】 玉手さん、当然分かって言っているのだと思うのですが、私の勝手な思い込みなのかもしれないのですが、市長の考えは2つ。

1つは「手話は独立した、日本語とは違う言語だ。だから、日本語に手話を当てはめていくだけ、それは手話の言語とは違う、それは日本語のただの手話の表現、羅列だ、というのが分かった。だから通訳者だとか、ろうあ者のような手話の表現は、自分がやるなどというのは恐れ多いというか、とんでもない。なんて恥ずかしいことを今までやっていたのか。」みたいなことが分かった。

もう1つは、今玉手さんがおっしゃったような「でも、自分が手話を表現することによって、市民皆にそれが広まって行って、『あ、市長もやってる。結構な年なのに頑張って手話で表しているのだ。それなら自分もやってみようかな。』という効果。」というのも市長も考えて、すごくこないだ悩んで、悩んだのですが、市長室解放の時の玉手さんの意見をくんで、というか、新年交礼会の時に頑張りました。そうしたら、参加者の中では泣いている人もいたりして市長も「これ、これだな」と言って、「手話で表すのは大変、覚えるのも大変だけれども、手話で表すことによって相手が感動してくれた。」とっていました。「でも、言語として考えた時には、自分はとてもじゃないけど、及ばないよ。」というようなことも言っていました。

【玉手委員】 はい。わかりました。でも市長のおっしゃることは矛盾すると思うのですよね。だって「石狩市皆に手話を覚えて欲しい。」それは「ろうあ者並みの流暢な手話を覚えて欲しい。」という願いではなくて、聞こえない人と聞こえる人が対等にコミュニケーションできる、下手とか上手いは関係ない、という意味で今やっているのだと思う。だから市長にそんな「流暢な手話とかろうあ者並みの手話を」という要求は、多分誰もしていない。ですよ。だから…。

【町田委員】 そうなのですよ。その2つの考えでいる、という…。

【玉手委員】 だから是非…。それは市長だけではなくて、行政に携わる方たちも含めて、やはり「自らができる手話をできる範囲で手話を表現してもらって直接コミュニケーションをとる」という姿勢が、やはり市民に、何と云うか、浸透したり、感じてもらえるコツかなという風に思います。あ、コツではないと思う。

【奥井委員】 こないだろうあ者と一緒にいた時に、入門の講座を受けた生徒だと思うのですが、その人がきて、「こんにちは(手話が間違っている)」口は「こんにちは」なのですが、「こんにちは(間違っている)」ろうあ者は何か分からないけど、私は黙って見ている、けれど間違っている表現でも、やって表してくれないと直すことができない。だから、ろうあ者も笑いながら、「こんにちは(正しい手話)でしょ？名前は何？」と言ったら、「私の名前は…(手話間違ってる)」とまた何かおかしいことを表現してくれる。だけれどもその「こんにちは」が無いと、周りの人もその時には「何やってるの？」みたいなので、加わってくるのですよね。それがつながって行って「こんにちは」ってやっていたのを、「何これ？」みたいなので笑い

になって、手話に気になってくれる。まったく知らない人も「手話勉強してたの？」という風な会話につながるから、それはすごい良いなと思ったのですよね。だから勇気を持って、間違っても構わないから表現してもらわないと、ろうあ者も直す事ができないから、その人は素晴らしいなという風に思った、という会話をしたのですよね。そういうのが広まったら良いなって…。

【金原会長】 手話、「何だそれ？」と思ったのですよね。

【奥井委員】 何か下手くそで、私のほうが下手だけど、手話こんな感じだったのですよね(表現)。

【金原会長】 そうなのですね。かわいいね。そういう手話、かわいいね。面白いね。良いと思いますよ。

手話は“上手い”とか“下手”とか関係ないですよ。通じるか、通じないかのどちらか。それが大事なのです。通じるか、通じないかのどちらか1つだけ。上手いとか下手とか関係ないです。そう思います。

【杉本委員】 伝えたい気持ちが大事ですね。

【金原会長】 僕が出した意見、案、たたき台、手話の案…、たたき台をきちんと覚えた？
たたき台というのは、小学校では教えるだけですが、手話サークルでは僕を見て何を学べるのか。手話を見たら、がんばっているなという様子が分かる。それを受け止めることが必要です。手話サークルに行ってみて、それがわかった。健聴者の場合は、来て、マンツーマンで会話して楽しむ。顔を合わせて会話することによって楽しむ。しかし沢山のひとと会って、「ああ、こういう手話もあるのだ」ということが分かるのが良いのじゃないの？

【杉本委員】 初級の入門を終了するときには、必ずろうあ者が何人か来て、習った単語を使って、名前とか挨拶とかをしてみる。それが楽しいという声をいただいています。小学校とかではどうかな。高校とか…。

【金原会長】 家の中だけではなく、外へ出て行くことが大事なのですよ。
皆が必ず来てくれれば…。福祉課がどのように考えているのか。
参考に意見を出してみれば良いのじゃないの？

【杉本委員】 手話の出前講座に行くと、校長室に入ってお話をします。校長先生に、「手話の学習を2時間、3時間したい。」とお願いしています。「手話サークルに見学に来てください。」とお願いしていますが、皆さん、考えてくれているのかどうか…。校長室を使って、紹介するのも良いかなと思います。必ず校長室に行って挨拶をして「お名前は？」と聞くと「ええと、私の名前は、なが、の…」「長野さん？ そうなのですね。」と必ずお名前を聞いています、学校に行く時には。

【金原会長】 顔を見たら皆、ドスの効いた顔をしているから怖がるのじゃないか？髪形を七三分けにするのはどうだい？七三分けにしたら良いのじゃないかな。

【杉本委員】 いやいや、俺は髪の毛を立たせるのが良いと思っているのだよ。

【金原会長】 磯野さんどうですか？ 何か意見はありませんか？ 何か言いたいことはあり

ませんか？磯野さん、いや、牧野さん。牧野委員、いかがでしょうか？

【牧野委員】

話はちょっとあれなのですが……。札幌とか、知人で、「石狩は、石狩湾新港ってあるよね。」と言うので「そうです。」と。そうしたら、「あそこは障がい者が働いているのですか？」と聞かれたことがあるのですよね。だから、障がい者って、体の不自由な方。やはり、クリーニング屋さんや、印刷屋さんが有名らしいのですよ。札幌の人にしたら。「そしたら障がい者の人が、あそこの新港ではそうなの？」「いや、違うよ。」とは言っているのですが、理解してもらえないと言うか。新港というのがすごく何か……。石狩市というのは前は郡でしたよね、石狩郡何だか……。それが何か未だに、若い人はあれですけど、私たちぐらいの年齢の人はそういう風に言われたことがあって、私もショックを受けて、「いや違うよ」とは言っても、やはり石狩の古い町、そして障がい者の多い町、という感じで言われて、ちょっとショックを受けて、ということはあったのですよね。だから今回、手話のあれも、「やはり障がい者が多いのでしょ？」と言うから、「いや違うよ」と言っても、何人かはちょっと、お茶飲みした時にそういう話が出た時、「ああ、そういう風に見られているのだ、石狩は」と。だからこの、手話がどうの、というのは、中にはそういう風に、「石狩の町は、そういう障がい者の多い町。まして新港はそういう所なのでしょ。」と言うから、いや、そういうのが何と……。石狩市がそういう風に見られていることが、ちょっとショックだなという気持ちだったのですよね。“障がい者の町”という風に思われているとは…。

【金原会長】

“障がい者”というレッテルを貼られているだけだと、ショックだと思うかもしれないですけど、私たちの立場にとっては、別に問題ないと思っています。障がい者、そういう手帳を持っていても、そういう風に言われていても、特に関係ないです。私たちにとっては当たり前なのです。今までずっとそうでしたから。ですので、特に問題はないです。

色々と、障がい者は“害”がある。というのは、聞こえる人たちが作ったことですよ。“害”があるという考え方、“障害”の害の字、この書き方は、聞こえる人たちが作った物ですよね。私たちは特に関係ない、当たり前だと思っています。しかしそのような考え方はまだまだ広まっていないですね。

例えば、途中、20歳……30歳くらいでしょうか、それくらいで聞こえなくなった人は、障害者手帳をもらおうとショックを受けるということがあります。大学に行こうとしている人でも、途中で聞こえなくなって障害者手帳をもらってショックを受けて、大学に落ちたという話も聞いたことがあります。まだまだそのような知識に開眼していないのですよね。まだそのような知識が皆さんに無いと思います。

【杉本委員】

今の課題としては、小学校、市民、町内会、議会議員、校長先生など、色々なところに教えに行っても普及はしていますけれども、企業とか会社とか、新港地域もそうですけれども、600ぐらいの会社が新港にはありますけれども、まだま

だ浸透していません。厚い壁に囲まれているような感じがしています。

【金原会長】 ドイツのアウシュビッツ？

【杉本委員】 それは違う違う。分断されている。東西が。新港はそのように分けられているようなイメージがあります。どうしたらそれを打ち壊して、浸透させることができるのか、ということが課題の1つです。

【金原会長】 壁みたいな物があるのですか？

【杉本委員】 いや、そういう感じのものがあるのだよね。

【金原会長】 壁があるのかと思ったよ。

【玉手委員】 例えば…。当てていただいて、どうも。

【杉本委員】 会長が遅いからだよ。

【玉手委員】 すべての企業が商工会議所に入っているわけではないけれど、例えば市は難しいかもしれない、一緒に難しいかもしれないけど、例えばろう協の立場で商工会議所に行って相談をしてみる、何かのきっかけができるかもしれない。

【杉本委員】 商工会議所ですか？

【玉手委員】 みたいなものですよね。

【杉本委員】 企業？商工会議所に加入しているだけではないのですか？

【玉手委員】 商工会議所は組織ですよ。そこに相談するという方法もできるのかな、という風に思う。

【金原会長】 ライオンズクラブみたいなものですか？

【玉手委員】 ライオンズクラブまた別です。例えば、商工会議所が中心になってやるお祭りとかイベント、ありますよね。だからそういう所で何かできるのか、とか…。

【町田委員】 はい。今の玉手さんの意見で良いなと思って。例えば何か、ピラまでは難しいかもしれないけど、何か案内みたいな、見てすぐわかるような、「役所に申し込んだら出前講座受けられます」「簡単です」という、「入口は広く開いているのだ」という事を五郎さんが行って説明して、「どうぞ、いつでも私たちを使ってください」みたいなことをすれば、意外と申込みとかあるのじゃないかなと思うのですよね。そしたら会社にも、じわじわじわと浸透していくかなと、今、話を聞きながら、それ良いなと思いました。

【金原会長】 時間は3時までですよ。3時までなので、もう時間を過ぎてしまいます。今日は、4回目ですね、ここまでにします。ここまでにして、金原副会長に結びをお願いします。

【金原副会長】 今年第1回目の会議、皆さんから色々と意見をいただきました。これが石狩市のバリアフリーにつながるように、効果が出れば良いなと思っています。北海道も色々な場所でまだまだ手話の言語が足りないところが沢山あります。来週江別に行くのですが、江別市では手話言語条例がなぜ必要なのかわからないと言われていました。「手話通訳者もいるし、なぜ手話の条例が必要なのだろうか」ということをろうあ協会に聞いても答えられなかったようです。それで私がアドバ

イスに行く予定です。まだまだ社会の中では、手話の理解の仕方、ろうあ者の理解も遅れていると思います。この石狩市がまず進めていって欲しいと思います。以上です。

【金原会長】 今まで、石狩には実績がありますよね。メインとしては、金原副会長が行くけれども、サブとして杉本さんが実績の例は何かということと一緒にいってお話すれば、江別の人も「ああなるほど、そういうやり方があるのか」という風に理解をしてもらえるのではないだろうか。2人で一緒に行ったら良いのではないの？

【杉本委員】 紹介してあげても良いと思います。講演は今まで連盟の理事も、まだまだなかなかつかめていない様子。実際に肌で感じていることをお話しするということであれば、「なるほど、そういうことか」と感じてもらえると思う。

【金原会長】 金原さんが説明をするだけでは、充分理解してもらえないと思うので、実績のある人と一緒に行ってお話しをしたほうが良いのではないかな？話を聞いただけでは分からないですよ。実際の現場はどうだったのかという話をすることであれば、理解が深まるのではないかな。

【杉本委員】 しばらく前に江別の会長と話をした時に、「条例なんて、無理無理。もう今忙しいでしょう？」「いやいや、別に。色々と案を出し合い、解決していけば、計画を立ててちゃんとやればできるよ」「いやいやいや…」と言われたのだよね。健聴者は動くのが早いけれども、ろう者は動き出すのが遅いですよね。

【金原会長】 江別は去年、色々と情報、話を聞いて変わったみたいですよ。大丈夫だと思いますよ。

まとめも終わりましたので、今日はここまでにしたいと思います。最後に何かありますか？

【事務局鈴木】 すみません。次回のテーマと言いますか。例えば、今日のお話の最後「会社に向けて」というものもいくつかでていたと思うのですが、やはり取り組んでいくにあたっては、いくつかの深めていくことが必要だと思うのですが、そういう意味で、次回のテーマを皆さんで相談して決めていただければと思うのですが、会長、よろしくお願ひします。

【金原会長】 今ご意見をいただきました。次回のテーマについてですが。

【杉本委員】 「会社についての普及」でどうでしょうか？普及が課題ですよ。

【金原会長】 「会社関係？」その議論が必要ですか？それでよろしいですか？

【杉本委員】 あとはピンと来ないです。

【金原会長】 アイワードという会社がありますよね。難しいのかな？

【杉本委員】 月曜日は通訳に行っているみたいですよ。朝、朝礼とかに。

【金原会長】 色々あるけれども、会社についての問題を話し合うことが必要になると思います。よろしいでしょうか？ 次回のテーマは「会社関係の普及について」ということでよろしいでしょうか。

【事務局鈴木】 はい。

【玉手委員】 皆さんありがとうございました。

【事務局田村】 次回は3月ですか？

日程調整。3月末で調整しましたこちらからご連絡させていただきます。

会議録署名

上記会議の経過を記録し、その相違がないことを証するため、ここに署名します。

平成30年3月18日

石狩市手話基本条例推進懇話会

会長 金原 輝幸